

令和 6 年 3 月 15 日

世田谷区立尾山台中学校

校長 永野 祥夫 様

学校関係者評価委員会

委員長 井上 健

令和 5 年度 学校関係者評価委員会報告書

はじめに

学校関係者評価は、世田谷区教育委員会が定めた大枠のもと、各学校でそれぞれの方法で行われている。尾山台中学校でも、特色ある評価のあり方をつくりあげてきた。しかしながら、令和 5 年度は新たな校長、副校长が着任し、関係者評価委員会（委員長）のメンバーも大きく変わったことで、従来のスタイルで評価を行うことは困難となった。そこで本年度は基本的に立ち帰り、まずは、生徒、保護者、地域住民にご協力をいただいた「関係者評価アンケート」の結果をもとに、尾山台中の現状、よいところ、課題などを把握するとともに、今後の

「関係者評価のあり方」を考えることとした。

本報告書は、その要点をみなさまにご報告するものである。「関係者評価アンケート」結果（全体の数値）は、別途、本校のウェブサイトに掲載されているの、あわせてご覧いただきたい。

1 生徒からみた尾山台中学校のよさと課題

「学校関係者評価アンケート（生徒）」の構成は、「1 学習について」「2 生活指導について」「3 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について」「4 キャリア教育について」「5 先生について」「6 学校生活全般について」「7 部活動について」「8 学校独自校項目」の8つの領域から構成されている（8以外は全区立中学校で共通）。学校生活や学習に関連してかなり網羅的に質問をしており、質問項目の合計は33に及ぶが、友人関係などについてはたずねていない。その結果からは、生徒たちが学校に対して、概して肯定的な評価をしていることがわかる（「とても」と「思う」の合計）。くわしくは、本校のウェブサイトに掲載された「令和5年度 学校関係者評価アンケート（生徒）」結果を参照のこと）。

ここでは、生徒たちが「とても」と強く肯定した質問項目の特徴をみておきたい。表1は、8領域33項目の質問の「とても」の数値が高い順に8項目をセレクトし、この3年間のデータを時系列で比較できようにしたものである。

表1 「学校関係者評価アンケート（生徒）」：「とても」が多い8項目（時系列で比較）

質問	令和5年度 n=257				令和4年度 n=300				令和3年度 n=302		
	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う
1 3-1 学校行事は楽しい	65.8	26.5	92.3	2.7	65.3	24.3	89.6	-1.7	69.8	21.5	91.3
2 3-2 学校行事は達成感がある	61.5	29.6	91.1	0.4	60.7	30.0	90.7	1.1	70.1	19.5	89.6
3 8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる	54.1	40.9	95.0	1.3	56.0	37.7	93.7	7.0	55.4	31.3	86.7
4 7-1 部活動は楽しい	54.1	31.1	85.2	7.8	52.7	24.7	77.4	-3.8	62.1	19.1	81.2
5 7-2 部活動は達成感がある	53.7	25.7	79.4	2.4	53.7	23.3	77.0	-3.5	59.6	20.9	80.5
6 6-1 学校生活は楽しい	53.3	36.6	89.9	2.5	56.7	30.7	87.4	1.1	62.1	24.2	86.3
7 1-3 授業では考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある	48.2	42.8	91.0	1.0	42.3	47.7	90.0	-0.6	50.7	39.9	90.6
8 1-1 先生は、課題について、自分で考えたりする時間を授業の中で取っている	47.9	46.7	94.6	3.0	38.3	53.3	91.6	2.0	53.0	36.6	89.6

*項目に付された数字（例：3-1）は、学校関係者評価アンケートでの質問項目の番号である。

*「前回増減」とは「とても+思う」の数値が前回調査と比較して、何ポイント増減しているかを示している。

表1には、生徒たちの「学校生活への評価」が端的に示されている。「とても」という回答がもっと多かったのは「3-1 学校行事は楽しい」で 65.8%。次いで、「3-2 学校行事は達成感がある」 61.5%、「7-1 部活動は楽しい」 54.1%、「7-2 部活動は達成感がある」 53.7%、となる。「6-1 学校生活は楽しい」に対して「とても」と回答した生徒が 5割、「思う」を加えると 9割の生徒が肯定的に評価しているが、こうした「学校生活の楽しさ」を彩るものに「行事」や「部活」があることがわかる。また、単に「楽しい」だけではなく、「達成感」をもたらしていることにも注目したい。

もちろん、「学校生活」は「行事」や「部活」だけではない。毎日の生活の中心には「学習」がある。表1のデータからは、生徒たちが「8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる」ことが読み取れる。世田谷区は、教育政策の重点のひとつとして「ICT を活用した新たな学び」を推進しているが、「とても」が 54.1%、「とても+思う」が 95.0%との回答からは、尾山台中において「ICT を活用した新たな学び」が着実に進められていることが窺われる。また、「1-3 授業で考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」「1-1

先生は課題について、自分で考えたりする時間を授業のなかでとっている」において、「とても」が5割弱、「とても+思う」で9割になることは、単にタブレットを使うだけでなく、ひとりひとりの学習スタイルを尊重し、他者と関わりながら協働的で主体的な学びを促そうとしていることも感じられる。次年度の関係者評価委員会では、タブレットと活用した学習や協働的な活動を観察し、生徒や教員へのヒアリングを行いながら、教育活動への理解を深めていきたい。

他方、生徒たちの評価が高かった8項目について「学年による回答の差」をみると、気になることも浮かび上がる。それは、1年生から3年生になるにしたがって、「学校行事」や「部活動」が「楽しい」「達成感がある」に「とても」と回答する生徒の数値が10から20ポイントも下がっていることである。そのためなのか、「学校生活は楽しい」について1年生では「とても」は64.4%であったが、2年生では52.3%、3年生では44.0%と減少している。入学した頃のフレッシュな気持ちは徐々に薄れてしまうのかもしれないが、学校生活に慣れてきたからこそ、好きなことにじっくりと取り組んでいくことができるはずである。学年に応じたワクワク感がある学校であってほしいと願っている。

学習面を注目すると、「タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる」「授業では考えたりすることを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」「先生は、課題について、自分で考えたりする時間を授業の中で取っている」のどれもが1年次に比べると、3年次では10から20ポイント減少していることが示されている。

学年が上がるとともに学習意欲や学習習慣に差が生じていないか、気になるデータである。

こうした傾向を先生方がどのように捉えているのか、お聞きしたいと思う。

表2「学校関係者評価アンケート（生徒）」：「とても」が多い8項目（令和5年度の学年で比較）

		1年 n=87			2年 n=86			3年 n=84			3年と1年の差	
質問		とても	思う	合計	とても	思う	合計	とても	思う	合計	とても	合計
1	3-1 学校行事は楽しい	74.7	19.5	94.2	60.5	33.7	94.2	61.9	26.2	88.1	-12.8	-6.1
2	3-2 学校行事は達成感がある	70.1	20.7	90.8	54.7	37.2	91.9	59.5	31.0	90.5	-10.6	-0.3
3	8-1 タブレットを使った授業に積極的に取り組んでいる	60.9	33.3	94.2	48.8	46.5	95.3	52.4	42.9	95.3	-8.5	1.1
4	7-1 部活動は楽しい	65.5	21.8	87.3	50.0	36.0	86.0	46.4	35.7	82.1	-19.1	-5.2
5	7-2 部活動は達成感がある	63.2	19.5	82.7	44.2	30.2	74.4	53.6	27.4	81.0	-9.6	-1.7
6	6-1 学校生活は楽しい	64.4	29.9	94.3	52.3	36.0	88.3	42.9	44.0	86.9	-21.5	-7.4
7	1-3 授業では考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある	63.2	19.5	82.7	44.2	30.2	74.4	53.6	27.4	81.0	-9.6	-1.7
8	1-1 先生は、課題について、自分で考えたりする時間を授業の中で取っている	64.4	29.9	94.3	52.3	36.0	88.3	42.9	44.0	86.9	-21.5	-7.4

2 保護者からみた尾山台中学校のよさと課題

次に、「学校関係者評価アンケート（保護者）」の結果をみてみよう。質問の構成は、「1学習について」「2生活指導について」「3学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について」「4キャリア教育について」「5教職員について」「6（学校）生活全般について」「7部活動について」「8学校からの情報提供について」「9学校運営について」「10家庭と学校の連携について」「11地域との連携について」「12学校の安全性について」「13学校独自項目について」の13の領域から構成されている。質問は全体で47項目と詳細であり、1から7までは生徒用の質問と同様の観点から学校の教育活動について評価を求め、8、9では保護者の目に映った学校運営のあり方を、また、10では保護者自身の学校の教育活動への

理解度や参加のあり方を、評価することが特徴である（本校のウェブサイトに掲載された「令和5年度 学校関係者評価アンケート（保護者）」結果を参照のこと）。

表3に整理したように「とても」という回答がもっとも多かったのは、「3-1 学校行事は、子どもにとって楽しい」と「3-2 学校行事は、子どもにとって達成感がある」で、53.0%であった。この2項目は、「思う」を加えると9割の保護者が肯定している。次いで、「7-2 部活動は、子どもにとって達成感がある」48.2%、「7-1 部活動は、子どもにとって楽しい」42.2%、「6-1 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」33.7%で、「思う」を加えると8割が肯定しており、尾山台中の学校行事、部活動をはじめとする学校生活が保護者から高く評価されていることがわかる。先に、生徒へのアンケート結果を表1でみたが、学校行事、部活動への高い評価は、親子で一致していることは特筆される。

さらに、「3-3 本校は、子どもの意欲を大切にしている」、「5-1 本校は、丁寧に指導している」、「6-2 本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある」において、3割の保護者が「とても」と回答している（「思う」を加えると8割となる）ことは、本校の先生方が生徒の意欲と達成感を大事にしながら、日々、丁寧な教育活動を実践していることを裏付けるデータといえよう。

表3 「学校関係者評価アンケート（保護者）」：「とても」が多い8項目（時系列で比較）

質問	令和5年度 n=121				令和4年度 n=121				令和3年度 n=250		
	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う	前回増減	とても	思う	とても+思う
1 3-1 学校行事は、子どもにとって楽しい。	53.0	43.4	96.4	6.3	48.8	41.3	90.1	-1.1	52.6	38.6	91.2
2 3-2 学校行事は、子どもにとって達成感がある	53.0	39.8	92.8	-0.5	54.5	38.8	93.3	4.6	50.4	38.3	88.7
3 7-2 部活動は、子どもにとって達成感がある	48.2	30.1	78.3	4.0	42.1	32.2	74.3	-8.1	42.6	39.8	82.4
4 7-1 部活動は、子どもにとって楽しい	42.2	37.3	79.5	2.6	39.7	37.2	76.9	-6.7	45.0	38.6	83.6
5 6-1 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	33.7	49.4	83.1	-5.3	33.9	54.5	88.4	4.5	35.5	48.4	83.9
6 3-3 本校は、子どもの意欲を大切にしている	32.5	51.8	84.3	2.5	27.3	54.5	81.8	-2.0	41.9	41.9	83.8

7	5-1 本校は、丁寧に指導している	27.7	53.0	80.7	3.0	15.7	62.0	77.7	-2.5	31.6	48.6	80.2
8	6-2 本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。	25.3	50.6	75.9	-1.0	24.0	52.9	76.9	2.2	28.9	45.8	74.7

他方で、気になる点も存在する。表4は、「8学校からの情報提供」「9学校運営」「10家庭と学校の連携」についてたずね結果の一部をピックアップしたものである。

まず、「8学校からの情報提供」についてであるが「8-1 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」で「とても」という回答は24.1%、「8-2 本校はホームページやメールなどで、本校は、保護者に情報を提供している」では15.7%にとどまっている。「思う」を加えると肯定する割合は7割から8割に達するものの、令和4年度と比較すると、肯定率が下がっていることがわかる。昨年度と今年度で情報提供のあり方がどのように変わっているのか（いないのか）を再確認していただきたい。

次に、「9学校運営」についてであるが、「9-1 本校は、保護者に指導の重点を伝えている」について、「とても」という回答が12.0%と少ないことは問題と言わざるを得ない。「9-2 本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」についても「とても」という回答は18.1%である。これは、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいない」と保護者が見ていると言うよりは、そもそも「本校の指導の重点」がよくわからないので、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいるかどうか」については評価できない状況にある、と解釈すべきであろう。そのことは、「10-3 私は、今年度の学校の指導の重点を理解している」に「とても」と自信を持って回答している保護者は、わずか6%であることに示されている。

こうした「情報提供の不足」は、保護者の学校公開や各種の学校行事、PTA活動へ参加す

る気持ちを萎えさせてしまっているのかもしれません、心配である。「10-1 私は、学校公開にすすんで参加している」で「とても」は 16.9%、「10-2 私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」では 15.7% にとどまり、令和 4 年度と比較すると、肯定率が 10 ポイント下がっていることがわかる。

表 4 「学校関係者評価アンケート（保護者）」：気になるデータ（時系列で比較）

質問	令和 5 年度 n=121				令和 4 年度 n=121				令和 3 年度 n=250		
	とても	思う	とても + 思う	前回 増減	とても	思う	とても + 思う	前回 増減	とても	思う	とても + 思う
8-1 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している	24.1	61.4	85.5	-4.6	30.6	59.5	90.1	2.2	34.3	53.6	87.9
8-2 本校はホームページやメールなどで、本校は、保護者に情報を提供している	15.7	57.8	73.5	-15.8	29.8	59.5	89.3	4.0	32.2	53.1	85.3
9-1 本校は、保護者に指導の重点を伝えている	12.0	56.6	68.6	5.6	14.0	49.0	63.0	-9.0	17.1	54.9	72.0
9-2 本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる	18.1	53.0	71.1	6.7	9.9	54.5	64.4	-5.9	19.1	51.2	70.3
10-1 私は、学校公開にすすんで参加している	16.9	32.5	49.4	-9.3	12.4	46.3	58.7	16.6	13.1	29.0	42.1
10-2 私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している	15.7	41.0	56.7	-13.6	12.4	57.9	70.3	18.0	12.7	39.6	52.3
10-3 私は、今年度の学校の指導の重点を理解している	6.0	48.2	54.2	0.4	5.0	48.8	53.8	4.2	8.1	41.5	49.6

以上のことから、来年度に向けた改善策として、「学校の指導の重点」の説明のあり方等を早急に点検・工夫することを求めたい。そのことが保護者の学校の教育活動への理解を促し、学校行事や PTA 活動等へのさらなる参加につながると考えるからである。

3 地域住民からみた尾山台中学校のよさと課題

最後に、「学校関係者評価アンケート（地域）」についてみていこう。質問の構成は、「1 生

活指導について」「2 学校行事（運動会・学芸会・学習発表会・宿泊行事など）について」「3 学校からの情報提供について」「4 学校運営について」「5 地域との連携について」「6 学校の安全性について」「7 学校独自校項目」の7 領域から構成され、項目数は 18 である（くわしくは、本校のウェブサイトに掲載された「令和 5 年度 学校関係者評価アンケート（地域）」結果を参照のこと）。

「学校関係者評価アンケート（地域）」はサンプル数（回答者数）が少ない（n=18）ので、結果の解釈は慎重にしなくてはならないが、学校と地域との関係性に関わる「3 学校からの情報提供」「4 学校運営」「5 地域との連携」をピックアップし、3 年間の時系列で整理したのが表 5 である。

表 5 「学校関係者評価アンケート（地域住民）」：気になるデータ（時系列で比較）

質問	令和 5 年度 n=16				令和 4 年度 n=16				令和 3 年度 n=21		
	とても	思う	とても +思う	前回 増減	とても	思う	とても +思う	前回 増減	とても	思う	とても +思う
3-1 学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる	50.0	50.0	100.0	-0.1	31.3	68.8	100.1	0.1	57.1	42.9	100.0
3-2「学び舎」の活動について、情報が提供されている	12.5	37.5	50.0	-43.8	25.0	68.8	93.8	31.9	14.3	47.6	61.9
4-1 学校の重点目標が明確である	12.5	50.0	62.5	-25.0	25.0	62.5	87.5	1.7	42.9	42.9	85.8
4-2 地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している	12.5	75.0	87.5	24.9	18.8	43.8	62.6	-18.4	28.6	52.4	81.0
5-1 地域の人や施設を教育活動に生かしている	12.5	87.5	100.0	12.5	37.5	50.0	87.5	6.6	23.8	57.1	80.9
5-2 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている	0.0	50.0	50.0	-18.8	18.8	50.0	68.8	11.6	4.8	52.4	57.2
5-3 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている	0.0	37.5	37.5	-18.8	18.8	37.5	56.3	-0.8	9.5	47.6	57.1

まず、「3 学校からの情報提供」であるが、「3-1 学校からのお知らせ（学校だより）などに

より、「学校の様子がわかる」では、「とても」が半数であるものの、「3-2「学び舎」の活動について、情報が提供されている」では 12.5%であり、令和 4 年度に比べて大幅に減少している。地域住民は「学校からの情報提供」はされているものの、その内容に十分ではないと感じているようである。何がどのように変わったのか、学校はそのことを自覚しているのか、再点検を望みたい。

「4 学校運営」に関連しては、「4-2 地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」で「とても」は 12.5%であるものの、「思う」を加えると 87.5%となり、学校の対応について一定の評価が得られていることがわかる。しかしながら、「4-1 学校の重点目標が明確である」については、令和 4 年度に比べて、「とても + 思う」の数値が 25 ポイントも減少していることが気になる。

「5 地域との連携」については、「5-1 地域の人や施設を教育活動に生かしている」では、「とても」は 12.5%であるものの、「思う」を加えると 100%となり、学校の対応に一定の評価が得られていることがわかる。しかしながら、「5-2 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」「5-3 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」については、「とても」は 0%であり、「思う」を加えても肯定的な回答は半数止まりである。令和 4 年度に比べて、「とても + 思う」の数値が 19 ポイントも減少している。学校協議会や学校運営委員会はさまざまな活動をしているはずであるが、その活動が地域に知られていないことがデータに示されている。

尾山台中学校が「コミュニティ・スクール」として何をめざし、どのような活動をしてい

くのか、今一度、原点に立ち返り、関係者で熟議をしていくことが求められるのではないか。